

令和6年度 園 評 価

(園名) 大垣市立西保育園

【園目標】	【前年度の成果と課題】・園経営計画に基づき、具体的な方策や取組指標を設定した園評価を行い、PDCAサイクルを重ねる。 ・一人一人の特性や発達段階を全職員で理解し、適切な支援や援助ができるようアドバイザーや専門機関との連携を図る。 ・常日頃より保育者は危機察知能力を身に付け、子どもの安全を最優先すると共に、職員間で状況や改善点を共有する。 ・クラスだより以外でも子どもの姿を配信し、保護者に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(※以下「10の姿」と表記する)」を伝える方法を探っていく。
心も体もたくましく 生き生きと遊ぶ子	

4段階評価

○保育者☆関係者

観 点		短期目標(評価項目)	自己 評価	保護者 評価	評価及び意見の概要
子どもへの保育・教育	身体的発達	規則正しい生活リズムが身に付いたり、リズム遊びに取り組み体づくりをしたりする。	3.7	3.9	○決まった時間や場所にこだわらず、保育室や隙間時間を利用して継続的にリズム遊びや体力づくりに取り組むことができた。 ○「チャレンジカード」の取り組みでは、具体的に簡単なチャレンジ項目を設定することで、家庭での取り組みや認めにつながった。 ☆具体的な取組計画を立て進められたことが、効果を上げることにつながった。 ☆規則正しい生活は、集団の中では取り組みやすいが家庭の中では崩れやすいため、家庭への啓発をお願いしたい。
		戸外遊びや園外保育を通して、身近な動植物に関心を持ち、大きさや美しさなど自然に対する驚きや発見を楽しむ。	3.2	3.8	○花の水やりを通し、草花の変化や生長を感じながら大切に作る姿が見られた。 ○季節の絵本を見る中で、草花や生き物に興味を持ち、図鑑で調べたり生き物について話したりする姿が見られた。 ☆玉ねぎやいちごの栽培等の経験は、後々になって目に見えない健康な食生活の基盤となる素晴らしい活動だと思う。 ☆西地区は、自然に恵まれている。安全に園外保育を行うことはもちろんであるが、虫や草花にたくさん触れる機会をもってほしい。
	社会的発達	相手の話に興味をもって聞いたり、自分の思いや考えを相手に話したりする。	3.7	3.8	○週案を通し、子どもの行動や言葉から気持ちを読み取り、保育に活かすことができた。 ○日頃の職員間の会話の中で、子どもの話をすることが増え、子どもも理解につながった。 ○生活の中で、その場その時の感情を自分の言葉で表出できる子が増えてきた。 ☆自分の話したいことを話す姿が見られた。また、うまく話せない子に寄り添い、本人の思いを大切に作る保育者の姿勢がよいと思った。
		感じたことや考えたことを、自分なりに描いたり作ったりして表現する。	3.5	3.9	○絵本だけでなく紙芝居やパネルシアター、ペープサートなども取り入れ、童話や昔話などを楽しみ文化や由来などにもふれることができた。 ○季節の歌を数曲提案し、子どもたちと相談しながら歌いたい歌を楽しんだ。 ○玩具を整理し、写真掲示などを取り入れ表示の仕方を見直すことで、子どもが自ら手に取りやすく片付けやすい環境となった。 ☆読み聞かせは人の話を聞くきっかけとなり、自分の考えをもつ大切な活動だと思う。いつでも絵本を手にとれる環境の構築に努めてほしい。
	精神的発達	挨拶が進んで言えたり、よいことと悪いことの区別が分かり、ありがとうやごめんなさいを素直に言ったりする。	3.6	3.9	○職員が毎日目を見て温かく挨拶をし受け入れることで、子どもたちからも自然に挨拶をする姿が見られるようになった。 ○保育者同士のコミュニケーションのよさが、子どもにとってよい環境となった。 ☆相手を思うことは、人間関係を維持する上で大切なことだが、子どもにとっては難しいことだと思う。時には、言葉で相手を傷つけてしまうこともあるが、これらの経験を踏まえた上で気付かせていくことを大切にしてほしい。
		友達に親しみ関わりを深めながら、協力したり思いやる気持ちをもったりする。	3.8	3.8	○戸外では自然に異年齢同士が誘い合い、教え合ったり話し合ったりしながら、鬼ごっこやドッチボールなどを楽しむ姿が見られた。 ○4,5歳児は、自由に部屋を行き来する環境を設定したことで、刺激を受け合い「やってみたい」「おしえたい」という姿につながった。 ○意図的に異年齢でリズム遊びに取り組む中で、5歳児は教える姿が見られたり3,4歳児は憧れの気持ちをもったりする姿が見られた。 ☆異年齢交流は、取組の意義をはっきりとさせて取り組んでいる。異年齢交流は、西保育園の良さとして捉えていくとよい。
保護者支援		通信や写真掲示を通して可視化し、「10の姿」が生涯にわたって生きる力となることを、保護者に伝える。	3.7	3.7	○継続的に全クラスが、クラス便りに「10の姿」記載することができ、保護者への啓発につながった。また、保育者自身も自主的に週案にも記載する姿勢が見られた。 ○延長利用で話せない保護者に対しては、懇談を設け、園での姿を伝えることに努めた。 ☆保護者の立場として、一人一人に丁寧に優しく指導や教育をしていることを日々感じる。保護者に「10の姿」は伝わっていると思う。
【次年度に向けて】・週案を通し保育を振り返る中で、ねらいや環境と援助、子どもの姿、考察を残し、普段からPDCAサイクルを行う。・リズム遊びに継続して取り組み、年齢の運動発達の理解や学びを深めながら、子どもが自由に体を動かす心地よさや体を操ることの楽しさを引き出していく。・自然なかたちや意図的に異年齢交流の場を設け、子どもが憧れの気持ちや思いやりの気持ちを持ち、異年齢児と関わることの喜びを感じられるようにする。・自分の好きな遊びを見つけて、遊びに必要な物を用意したり作ったりすることができるよう、環境整備の工夫をする。・登降園時や懇談の中で、保護者へ活動の意味やどんな力をつけたいのか、どんな力が育っているのかを伝えていく。					